

《札幌地域イオル再生事業ライブラリー調査聞き取り》

【話者】 K. Sさん

【実施日】 平成 25 年 2 月 2 日（土）

聞き手 A : K. Sさん、何年生まれですか？

K. Sさん : ○○年（1940 年代前半）、○○歳（70 歳代前半）。

聞き手 A : 生まれた場所は？

K. Sさん : (写真を見て) 生まれたのは浜益だけど、3 歳のとき、T で一番長女が俺の母親よ。  
…で、あそこにいる 2 人は俺の育ての親だ。

聞き手 A : 左側？

K. Sさん : うん。あのひげ伸ばしたのが T. K。俺、本当は（名字が）K じゃないんだ、T なんだわ。学校終わるまでずっと。T の養子だからよ。姉の子どもだからよ。

聞き手 A : 亡くなった K さんは？

K. Sさん : あれは俺の亡くなった兄貴だ。

聞き手 B : 私、よくかわいがってもらったの。私、N の娘なの。知ってる？

K. Sさん : 俺、小さいとき浜益——於札内出たからな。昭和 29 年のオリンピックあった年、東京にいたから。昔はうちの親父が鮭獲ってたで。昔のあそこ、船着場なんだ。

聞き手 B : そのころ、知ってるの？

K. Sさん : うん。

聞き手 A : お父さんは T. K さん？お父さんの出身は？

K. Sさん : そう、ここ石狩よ。

聞き手 A : お父さんがこの真ん中の方？

K. Sさん : うん。あれがばあさんでよ、T. K さんの母親だ。T. U ってた。昭和 ○○ 年（30 年代後半）の年に 79 歳で死んだんだ。明治 ○○ 年（10 年代前半）生まれだ。

聞き手B : お兄さんのK2さん、いるじゃないですか？

K. Sさん : だからKはよ、Tで一番長女がよ～、浜益へK3のところへ嫁にいったわけよ。それで二番目がA. Tってよ～、うちの母親のすぐ下の明治45年生まれであの人がAに嫁に行ったわけよ。熊彫りやってた。

聞き手B : じゃあ全部繋がってるんだ～

K. Sさん : だいたいがよ～…ここに一番小さい写真あるしょ～、あれはK4のじいさまだよ～。熊獲ってて熊に食われたんだ。

聞き手A : K4さんっていうのは、A. KさんのところのK4さん？

K. Sさん : うん。あのじいさまの兄貴がよ～、T. Uのところに婿に入ったわけよ、Tへ。

聞き手A : お母さんのお名前は？

K. Sさん : T. Mってんだ。サケじゃなくMだ～。…で父親がK3だ。俺、そっからTのうちへ3つの時もらわれてきたんだから。

聞き手A : T. Kさんじゃなく、K3さん？

K. Sさん : うん。あの人は育ての親だからよ～。本当の父親はK3よ。ちょっと飯食わせてよ～。

聞き手C : せっかく作ってきたんだから、食べなさい。肉もあるし。

K. Sさん : 俺のせがれなんか肉食わないし、だけどみんな熊でもなんでも解体するよ。馬でも。俺のところ禅宗だけど、お寺のボンズ、生振っていったら檀家が結構多いんだわ。禅宗の。昔、役場なんかなかったから、みんなお寺で生まれて出生届だとか出したんだ。みんなお寺でやってたんだよね。だからTの先祖のやつね、禅宗のお寺に行くとみんな残ってるよ。生振の学校建てる時も、Tの家はずいぶん手伝ったんだから。お寺作ったり神社作ったりするのにな。だから過去帳調べるったら、お寺が一番早いんだわ。役場なんて何十年も後だからよ～。だって、札幌に道庁できたのが明治10年だからよ～。10年のころに作り始めたんだから、でき上がったのはうんとあとだから。

聞き手C : K. Sさんね、生まれはさっきどこって言ったっけ？

K. Sさん : 浜益。

聞き手C : 浜益で生まれて、いくつまで浜益？

K. S さん : 3つのとき生振に来たわけよ～。

聞き手C : あっ、3つの時に生振に来たのね。

K. S さん : そう。8人兄弟の4番目。男ばかり。

聞き手C : そのとき親はどんなことしてたの？

K. S さん : 漁師。うちの父親ってあれだから、千島にいて毎年、昔、日魯漁業って国でやってたんだ。今のマルハの缶詰よ。太洋漁業。

聞き手B : 千島にいたんだ、親は。

K. S さん : うん。

聞き手C : そして、そのころはニシン獲れたでしょ？浜益のときは。それでいつごろまで浜益にいたの？

K. S さん : 3つのときまで。

聞き手C : 浜益から出て、どこに行ったんだっけ？

K. S さん : ずっとここにいたよ。

聞き手C : そのころ生振にいて、何やってのかな？

K. S さん : シャモ（和人）が入ってきたのが明治5年。山形の米沢から入ってきたんだ。それで31年ぶりに樺太へ帰れたんだわ。明治29年か30年だ。…んでここの対雁に31年いたんだわ。…で、来て4～5年経ってからだわ～。赤痢と天然痘とか…わかんないけど流行ったんだ。日本人もかなり死んでるんだわ。841人で来たけどよ、その中に30人くらいね、どこ行ったかわからないのがあるんだよ。15人はシャモと一緒にあって、今でも八幡町あたりにいる。厚田にもかなりいる。

聞き手C : 本当？K. S さん、そういう人たち知ってる？

K. S さん : 聞いてもね、アイヌだってエンチウ（樺太アイヌ）だって絶対言わない。口裂けたって言わない。

聞き手C : 本当の地元のアイヌの人、ほかに知ってる？

K. S さん : 知ってるって最近なもの、こっち帰ってきたのよ。10年ちょこつとだから、アイヌのことなんてわかんなかったけど、M. H って門別っていう地名だからよ〜。日本人だってみんなそうだよ。地名みたいのが苗字だからよ。戊辰戦争終わったのが明治2年でよ、北海道も名前変えて。それから女も選挙権あったり…それまで女はゴミみたいな扱いだっただ。ああいう時代だったんだ。

聞き手C : K. S さん、今日はK. S さんの石狩アイヌについて聞きに来たんだ〜。だから何か知ってたら、どんなことでも教えてほしいな〜。

聞き手A : 3歳くらいにこっちに来たときって、お父さんとかお母さんはなんかアイヌのことしてた？

K. S さん : いや、教えなかった。だって、ばあさんがアイヌ嫌いだから。

聞き手A : 例えば、教えないけど親どうしではアイヌ語使ったりとか？

K. S さん : 全然。いや、みんな知ってるけどよ、聞いてたんだけど全然教えない。なんでもいから一生懸命勉強して。

聞き手B : あその特別開拓功労、T. A ？

K. S さん : アイヌのAも一緒だから。

聞き手B : 開拓120年記念式典だって。

K. S さん : そんで学校作る材料だとかをTが運んでやったり、そのころまだ馬いないから、ほとんど船…船で運んだんだ。だから俺が昭和39年まで札幌にいたけど、石狩街道がまだあちこちしかないから。生振だって、すごい道悪かったんだから。ガタ馬車でないと走れないわけよ。歩道なんか走ったら、もう腹つかえて。道路っていう名前だけ。それで生振は泥炭地だから、なおさらひどいんだ。馬だとか牛だとかもずいぶん死んでる。泥炭ってのは石炭の前のやつで新しいやつだから。あれに火ついたら1カ月でも燃えるよ。干ばつで天気良くなったら、天然の火がつくんだわ。そのころなんて今みたく、消防車もないし、一番大きい車で6トンだよ。6トン車のダンプカーしかなかったんだ。まだガソリン車で、ディーゼルじゃなかった。

聞き手B : じゃあ仕事してるときって、アイヌだってことは誰もわからなかったの？

K. S さん : ううん。だって間違いなくアイヌしかいないんだもん。これ見せてやろうか。ここか

ら南樺太までアイヌ語の地域なんだから。間違いなくこれもかなり古い本なんだけど。俺が中学2年生のときしかTの家になかったんだ。中学3年はよその家から通わせてもらった。そしてO大工ってところに弟子入りしたんだ。今でも思うよ。大工になって良かったなって。…して、オリンピックのころはみんな便所って汲み取りよ。汲み取りもやったんだ。

聞き手B : 昔はアイヌと和人と、区別されて学校通ってたんですか？

K. S さん : いや、俺のころはもうなかったな、そういうのは。明治の初めごろはアイヌ学校あったの。けど誰も行かなかったらしい。アイヌ数多いのはやっぱりここよ、石狩。なぜかったら春になればニシンだし。

聞き手B : あれ、K. S さんが作ったんですか？タバコのやつ。

K. S さん : うん。東京にいたときは仏像ばかり彫ってたんだ。

聞き手B : 熊は彫ってなかったんだ？

K. S さん : 小学校2年生くらいから彫ってた。

聞き手B : うちも父親の兄弟みんな彫ってたんだ。父親だけは農家継いだんだ。ほかは全部熊彫り。

K. S さん : その当時のアイヌの熊はこんな感じよ。それで八雲あたりに入ってきたシャモって仙台あたりから来たんだわ。徳川幕府と親戚らしいのばかり。その人がスイスに行って今の熊になったんだ。そんなの誰も知らないべ。

聞き手C : 仕事ない冬の間、それをしてたんだよね。

聞き手A : ご先祖さんの写真撮らせてもらっていい？

K. S さん : うん。俺の母親は白老の人だからよ〜。白老のメノコ（女性）だ。T2っていうんだ名字は。ここに石狩アイヌがみんな逃げて行ってるんだ。シャモが入ってくるって。

聞き手C : この石狩で、アイヌらしい生活ってしたことありますか？

K. S さん : TとK4の2軒しかいないからよ。あとみんな旭川のほう逃げて行って。アイヌらしいことはない。

聞き手A : 木彫りは誰に習ったの？

K. S さん：だって、おじさんもおばさんもみんな熊彫りばかりだもん。だから自然とできたかな。

聞き手A：今もする？木彫り。

K. S さん：金になればやるよ。昔は俺、鮭ばかり彫ってた。うしろにあるような。そういうのばかり作ってた。

聞き手C：そのころは、バンバン売れてたんだ。

K. S さん：うん。こんなの作ってたのは小学校3年生くらいのときからだ。これが今のアイヌの熊の顔だけだよ、この顔になったのは昭和になってからだ。

聞き手C：ところでK. S さんね、石狩川で鮭獲ってたでしょ。あれいつごろから獲ってたっけ？

K. S さん：35年くらい前からだ。

聞き手C：やっぱり川ばかりで？

K. S さん：川ばかり。

聞き手C：それは道庁に申請に行くのかい？

K. S さん：まだ道庁なんかなかったもん、そのころ。道庁できたのなんか明治10年過ぎだぜ。まだ役場もないし。それをだからお寺がみんなやってたんだ。鮭は最初一日5本くらいだったの、最初。それも網使ってやったんだ。最後の年は8本くらい獲った。2本はカムイノミ（「神（カムイ）」を天に送り帰すアイヌの儀式）に使って、あとは俺もらった。

聞き手C：そのときは、警察は見てるだけだったんだ。

K. S さん：うん。だってアイヌは主食だったから。俺らの先輩は食べるだけでなく、皮剥いで靴作ったり、着るもの作ったりしてたからな。それもやったのはM. H さんじゃないか。他はいないんじゃないかな。H ちゃんは、俺の師匠みたいなもんだから。T. S さんもいた。

聞き手C：T. S さんはいくつになってるんだろ？じゃあK. S さんのおじさんにあたるんだね。

K. S さん：そう。俺の母親の一番ばっちこだから。

聞き手C : 今いくつになってるんだろ？

K. S さん : ○○ (80 歳台前半) くらいじゃないの。昭和○年 (昭和 1 桁年代後半) 生まれなんだわ。あと A. K って知らない？あれ俺の母親の妹だから。T から A に嫁に行ったの。浜益じゃなく深川のほうにコタン (集落) があったんだ。B とかもみんな親戚になるんだ。アイヌはみんな繋がってるんだ。

聞き手C : K. S さんの奥さんは、アイヌではないのね？

K. S さん : 新潟の人なんだ。あのへんの人で名前に○がつくと、みんな朝鮮系だからな。ただ青森にも秋田にもアイヌの地名がいっぱいあるからな。だからエンチウも日本人と一緒にあって日本海側にいるけど。浜益のほうまで。だから近くの温泉で会うけど、絶対アイヌだなんて言わないよ。

聞き手B : だから、言わない人や知らない人がたくさんいるんだよね。

K. S さん : だから、わかってても言わないんだ。俺なんか学校の先生にも差別されたからよ。今にみてろって思ってたよ。だけど暴力とかそういうの、小学校のときに絶対やったらダメだなって自分で誓ったから。

聞き手B : 大工さんで働いてたり現場監督したりだったら、アイヌとしての差別はされてなかった？

K. S さん : うん。東京行けばそんなのはないもん。ウタリ協会入っても銭にはならないし。その代わり彫り物だとか仏像だとか鮭だとか、そんなんばかり彫ってたから。熊彫ってたって銭にならんし。そっちのほうやってたんだ。

聞き手B : そのころって、アイヌの人で口の周り黒くしてる人、いなかったんですか？

K. S さん : A 家にはいた。あと、この辺はいないかな。あとは深川とか旭川とかはいっぱいいただけど。それもやっちゃダメとか、魚も獲っちゃダメとかいろいろ禁止になったんだ。それで鮭獲っていい権利って、日本人もみんな明治 11 年だから、許可下りたの。1 カ月も道庁の前でみんな頑張って明治 11 年だ、ようやく獲れるようになったの。鮭の権利もらえるようになったの。石狩川で一軒のうち 5 カートンくらいやってたし、引き上げだって 5 箇所くらいやってたんだから。安瀬とか生振とかみんなアイヌ語だからな。花畔もそうだ。川下の人っていうんだから。別に戦争に負けて取られたわけでもないし、戦争もなんもやってないんだから。

聞き手B : 昔、○の人とか来て○を○したとかって、いっぱいあった？

K. S さん：あったあった。それに、K5 コレクションはみんなここら辺にあった遺骨やなんか集めて、医学部に納めてな。K. M なんて俺知ってるよ。しかも毎年金払うから、その代わり死んだら解剖させてくれっていう契約でな。

聞き手 C：こないだ（まで）船に乗って石狩川で鮭獲ってたじゃない？いつまで獲ってたの？

K. S さん：去年からやめたんだ、俺。船もみんな処分した。金ないのにやってたら、かなりかかるんだ。うちの親父がやってたときは 70~80 万金もらってね、やってたけど。一銭も出ないんだ。

聞き手 C：じゃあ、ちょっと前は道庁に行って許可もらってたの？

K. S さん：ううん。石狩の場合は石狩の役場でできたんだ。石狩の漁業組合の判子もいるんだ。千歳の鮭の水車あるところの判子もいるんだわ。

聞き手 C：3 箇所判子があるんだ。

K. S さん：だから、獲れたらみんな挨拶代わりに持ってくるんだ。黙ってても。俺ダメだって言ったら、あいつら魚獲れないんだよ。

聞き手 C：申請に行ったのは、自分はアイヌだからって？

K. S さん：そうだよ、アイヌだけ。昔から漁業権はあったんだ。あの人の場合は樺太でもやってたし。厚田でもニシン獲ってたし。昔なんて鮭いっぱいいて、船なんて出せなかったんだから。

聞き手 C：じゃあ、K. S さん本人はどこ行って許可取ってきたの？

K. S さん：道庁だよ。だから、おじきが札幌支部の人間だからよ、4~5 年前までは。チセ（家）作るんでも船作るんでも、誰も経験ない。俺ばかりよ。イナウ（アイヌの祭具）作るんでもサパンペ（男性の冠）作るんでも、誰もいなかったんだから。昔は隣町…八幡町っていうんだけど、魚いっぱい出せないんだから。今そこ八幡町になってるけど、若生（ワッカオイ）っていうところなんだ。ワッカオイっていうのは「うまい水の採れるところ」っていう意味な。ワッカっていうのは水のことだからよ。八幡町っていうのは、あそこに宮大工がいたんだわ。神社なんかどうやって作るかわかる？鎌倉からお札持ってきて、石狩にあるのは函館の松前から持ってきたお札だ、八幡町の。

聞き手 C：御霊は？ないの？



K. S さん：ないない。ただ札だけ。お寺みたく何でもあると思ったら、とんでもない。そして道庁なんて…本当は石狩に持ってくる予定だったんだ。それくらい栄えてたから。

聞き手 B：あと、アイヌの人って…あなたは禅宗であなたは法華とかって決められたんですか？

K. S さん：いや。自分で決めたんだと思うよ。

聞き手 C：要するに、K. S さんて小さいころからアイヌらしい…アイヌの生活ってあんまり送ってなかった？

聞き手 A：でも自然と…木彫りやなんかはできたんだ。

K. S さん：俺の父親って昭和 20 年かな、豊平川作ってまだ完成しないうち大水で流れて、T. K さんが木の端拾ってきて、それで家建てたんだ。それまで兄弟なんかと 1 軒の古い家に住んでたんだけど、T. K は長男だけど、今でも三町歩くらいあるんだ。そこに家建ててでき上がったの、昭和 21 年だわ。それで 8 畳間ひとつだけ床敷いてよ、親子 4 人で暮らしてたんだ。俺より 3 つ下の〇年（昭和 10 年代後半）生まれ、M2 っていうんだけど、八幡町にある畳屋からもらってきた女の子と一緒にになったんだ。それで俺が育ったわけよ。それで結婚したのが俺の本当の兄貴よ。俺が 4 番目で 3 番目と一緒にあって、〇年（昭和 10 年代前半）生まれだ。それでこんなになったから戸籍調べにいったら、どこにあるかわかんねえんだわ。調べてみたら両方とも教員だったらしい、母親も父親も。俺と同じ年の兄貴もいたけど、全然付き合わないんだな。やっぱり親が亡くなると、ああいう人間になってしまうんだな。兄貴と結婚して 2 人できたんだけど、そのとき離婚したんだけど。てめえ産んだガキも兄貴のところに置いていこうとしたから、俺反対して「お前 M2 な、小さいとき誰と育ったんだ？お前の親どこにいて T へ来たか知ってるか？」…って言ったんだ。お前生んだ子どもだから、大事にしなきゃダメだ。俺もたいして生活楽じゃないけど、困ったら俺も助けるからって東京から札幌に来たんだ。やっぱり片親いないとダメだね。やっぱり東京行けばいろんなこと勉強できる。金儲けも石狩じゃ無理だけど、東京ならできるんじゃないかな。

聞き手 B：こういう「マキリ（短刀）」だとか、誰かに教えたりしてないんですか？

K. S さん：金なくても誰かいればいいけどな。息子ができればいいけど、事故で片足短くなって、そのころから、ああ、俺は一生面倒見なきゃならんって思ったんだ。今、上にいるけど、あれは長男坊で…下にまだ男いるけど、次男坊はもっとデカイ。

聞き手 C：私が以前、一緒に鮭獲ったことあるのは 2 番目？

K. S さん：あれは上の長男坊。

聞き手B : こういうもの作って売ったりなんかはしなかったの？

K. S さん : しない。道楽で…頼まれればやるけど。

聞き手A : これでは生活できないからやらなかった？

K. S さん : うん。これじゃ飯食えないもの。だって、今、仏像彫ったって金にならねえもん。

聞き手A : 今、誰かそういう人がいれば伝えていきたいと思う？

K. S さん : 思わないな。せめて鮭くらいは…って思うけど、今、石狩川汚いから。誰も買い手がいないんだわ。札幌で長年魚屋やってた連中がよくわかる。厚田あたりの魚もダメだからな。

聞き手B : マキリとかの木彫りはどう？

K. S さん : 教えるったって、やる気のない人間に言ったって無理よ。解体屋もそうよ。なんぼいい大学出たって、できねえんだもん。ぶきっちょで。鮭の権利は厚生省だからな。許可もらうんでも。

聞き手A : K. S さん、誰かアイヌの人知ってる？

聞き手C : 誰か石狩アイヌの人。

K. S さん : いない。

聞き手C : 親戚いるっしょ。おばさんは？

K. S さん : おばさんって誰よ？鮭獲ったときのか？あれ死んだもん。津波があったときに。3月の11日だ〜。だから他は知ってるけど、付き合いもないし。夕方の5時半ごろ亡くなったんだ〜。あれも浜益から嫁に来たんだ。Kだからよ。俺らの親父の親戚になるから。女ばかり4人。うちのばあさんが一番下でSっていうんだ。

聞き手C : 浜益とかにはいる？石狩だけでなくて。

K. S さん : いないな。あと石狩の…余市が一番アイヌ多かったんだわ。それが働けるやつ全部漁場に連れてって。男いないところにみんなシャモが来て、アイヌは病気持ってるって。ふざけるなって感じだよな。みんなシャモがうつした病気なんだ。

聞き手C : K. S さん何人兄弟だっけ？

K. S さん : 8 人兄弟で、上 3 人が 1 カ月くらいでパタパタって死んで。K6 が死んで、H2 が死んで G が死んで…いっぺんに死んで、残ってるのは 5 人だ。夕張にひとり、あと生振に 2 番こころがいる。

聞き手 C : 生振にいる人、女の人？会ってお話できる？

K. S さん : 男。いや、ドア開けないもん。俺行っても開けないんだわ。兄弟でも開けないんだ。一回アイヌの問題でやりあってから、開けないんだ。俺 4 番目だけど、体格も一番小さいんだ。親もしっかり食べさせてくれなかったんだ。昭和〇年（10 年代後半）生まれの M2 と学校行くのに、今みたく炊飯ジャーあるわけじゃないし、夕べに炊いたガチガチのやつお湯沸かして、かつ込んで学校行ってたんだ。だから伸び盛りにきちんと食べないからチビなんだ。

聞き手 C : あと、元気な兄弟いない？

K. S さん : T3 ってのが洋服のデザイナーなんだけど、八王子にいる。

聞き手 C : そっかあ～。じゃあ他はいないんだ。

K. S さん : みんな東京だ。

聞き手 C : そうなんだ。

聞き手 B : アイヌのもの作ってたりとか、写真とかないの？

K. S さん : あるんじゃないかな。でも探してみないとわかんないな。